

ふるさと応援団員からの便り

遅咲きのヒマワリ

役者が幡多弁指導も任されて

荒木誠

東京都在住

中村出身

昭和43年生まれ



私が中村出身ということ、所属事務所を通して、「遅咲きのヒマワリ」の幡多弁指導の話が来たのは、8月のお盆前でした。役者が本業なので、ドラマでも市民病院の理学療法士 木下和真役をやらせてもらいました。

私は小学校(中村、途中から具同)から高校まで(中村中、宿毛工業)、ずっと野球をやっていました。スポーツ少年団中村若鮎にも入っていました。

子どものころから、映画が好きで、太陽館には一人でも行っていました。俳優には高校生のころから興味があり、神奈川県自動車部品製造会社に就職をしましたが、すぐに辞め、この世界に入りました。生活の苦労はあまり気にならず、役者の仕事のおもしろさに没頭してききました。

映画やテレビには、たまに出演させて頂いておりませんが、自分にとつての代表作は主演の坂本九役をつとめた「永遠の恋物語」(テレビ朝日)でしょうか。

プロデューサーから、今回のドラマは幡多弁がキー(鍵)になると言われましたので、スタッフ顔合わせの時から、「全国に通じる幡多弁」を考えました。脚本家も地元のことをよく勉強をされており、とても親近感がわきました。

順一やさより等は、回を追うごとに幡多弁がうまくなっていることがお分かりになったでしょうか？主役の丈太郎は東京から来た人、かほりは地元で反発をしている役なので、幡多弁は使わない設定になっています。

私は両親を子どものころに亡くし、いま中村には兄がいますが、今回久しぶりに帰ってきました。ちょうど「いちじよこさん」と重なり、ドラマスタッフは屋台の多さに驚き、喜んでいました。

でも、以前はもつと人も屋台も多かったです。以前はもつと人も屋台も多かったです。天神橋商店街もさみしくなった気がします。

中村は自分を育ててくれたところでもあり、今回のロケを通じて、あらためてふるさとの重みを感じました。自分がかかわったこのドラマが中村に活気を呼び戻すきっかけになればうれしいです。

これはテレビ局が決めることですが、同じスタッフでこのドラマの続編ができることを期待しています。

(俳優)